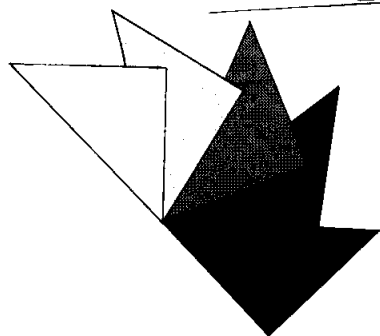


YAMAHA PERSONAL ELECTRONIC PIANO YPP-55

取扱説明書

このたびは、ヤマハ・パーソナルエレクトロニックピアノ YPP-55をお買い求めいただきまして、誠にありがとうございます。



この取扱説明書の見方

本書は、実際に使いながらステップを踏んで読んでいただける構成になっています。YPP-55を初めてお使いになる方は、最初から順にお読み下さい。

また、次のような見方をされるのも便利です。

全てをご理解いただいた後は……

”もくじ”を見て目的に合った所をさがす。

ボタン等のはたらきが分からなくなった時……

”各部の名称とはたらき”を開いて調べる。

さらに詳しく知りたい時は、そこに記載してある参照ページを見る。

もくじ

ページ

1. ご使用の前に

1. ご注意…………… 1
2. 付属品…………… 1
3. スタンドの組み立て方/取り付け方…………… 2

2. 各部の名称とはたらき

1. 操作パネル…………… 3
2. 付属端子…………… 5

3. 鳴らしてみよう

1. 好きな音色で弾く…………… 6
2. デモ演奏を聴く…………… 7
3. 演奏に効果を加える
(アンサンブル、リバーブ、ダンパー)…………… 9
4. メトロノームに合わせて弾く…………… 11
5. 音程を変える(トランスポーズ)…………… 13

4. 演奏を録音/再生する(パフォーマンスメモリー)

1. 演奏を録音する…………… 14
2. 演奏を再生する…………… 16

5. その他の機能

1. 他の楽器と音程を合わせる
(マスターチューニング)…………… 17
2. 他の機器と接続する…………… 18
3. MIDI機能を使う…………… 19

6. 資料

1. オプション(別売品)のご紹介…………… 25
2. 仕様…………… 25
3. おかしいな?と思ったら…………… 26
4. 保証とアフターサービス…………… 裏表紙

1. ご使用の前に

1. ご注意

こんな所には置かないでください。



- ・窓際などの直射日光の当たる場所や、暖房器具のそばなど極端に暑い場所。
- ・日中の車内
- ・温度の特に低い場所
- ・湿気やホコリの多い場所
- ・振動の多い場所

こんな所では使わないでください。



- ・ラジオやテレビのすぐ近くで使用されますと、ラジオやテレビ側で雑音が発生することがあります。十分に離してお使いください。

乱暴に扱わないでください



- ・落としたり、物をぶついたり、上に座ったりしないでください。傷がついたり、故障の原因になることがあります。
- ・ボタンやスイッチ、端子等に無理な力を加えないでください。
- ・スタンドを取り付けた状態で倒したり、壁にぶつけないでください。

使わない時は…



- ・必ず電源を切ってください。
- ・電源プラグを、家庭用コンセントから抜いてください。

美しく保つために…



- ・汚れは、柔らかい布で乾拭きしてください。
- ・汚れがひどい時は、少し水で濡らした布で拭いてください。
- ・アルコールやシンナー類は、絶対に使わないでください。
- ・ビニール製品を上に乗らないでください。張り付いてしまうことがあります。

保管してください。



- ・この取扱説明書をお読みにになった後は、保証書と共に大切に保管してください。

2. 付属品

請面立て



ダンパーペダルFC5



ダストカバー



これは電子機械工業会「音のエチケット」キャンペーンのシンボルマークです。

音楽を楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては、大変気になるものです。特に、夜間は小さな音でもよく通り、思わぬところに迷惑をかけてしまうことがあります。適当な音量を心がけ、窓を閉めたりヘッドホンを使うなど、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

3. スタンドの組み立て方／取り付け方

はじめに

・部品を間違えたり、取り付けの向きを間違えないように注意しながら、手順どおり組み立ててください。

・組み立て作業時の安全確保のため、組み立ては2人以上で行ってください。

・解体する時は、組み立てと逆の手順で行ってください。

組み立て手順

①+(プラス)のドライバーを用意します。



②部品がすべてそろっているか確かめます。

ネジセット

(A)長いネジ



4本

(B)短いネジ



5本

(C)ネジ用キャップ

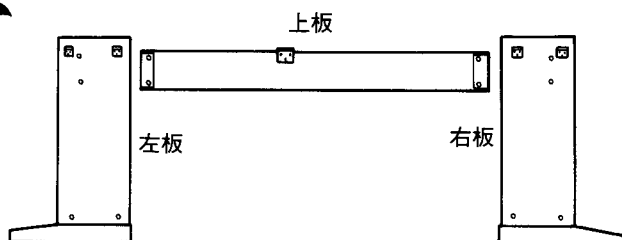


4ヶ

(D)穴用キャップ

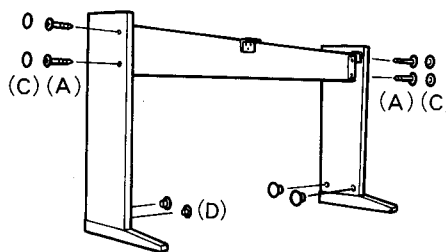


4ヶ



③スタンドを組み立てます。

※4本のネジ穴を合わせるためネジ4本を軽く締めた後、しっかり締め付けてください。



①長いネジ(A)で固定します。

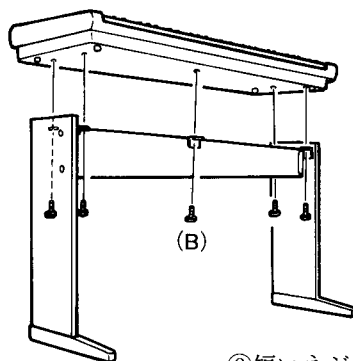
②ネジ用キャップ(C)をかぶせます。

③穴用キャップ(D)をかぶせます。

④スタンドを本体に取り付けます。

①スタンドと本体の前後を確かめてから、ネジ穴が合うように本体を置きます。

本体を落さないように1人は本体を押さえ、もう1人がネジを締めてください。



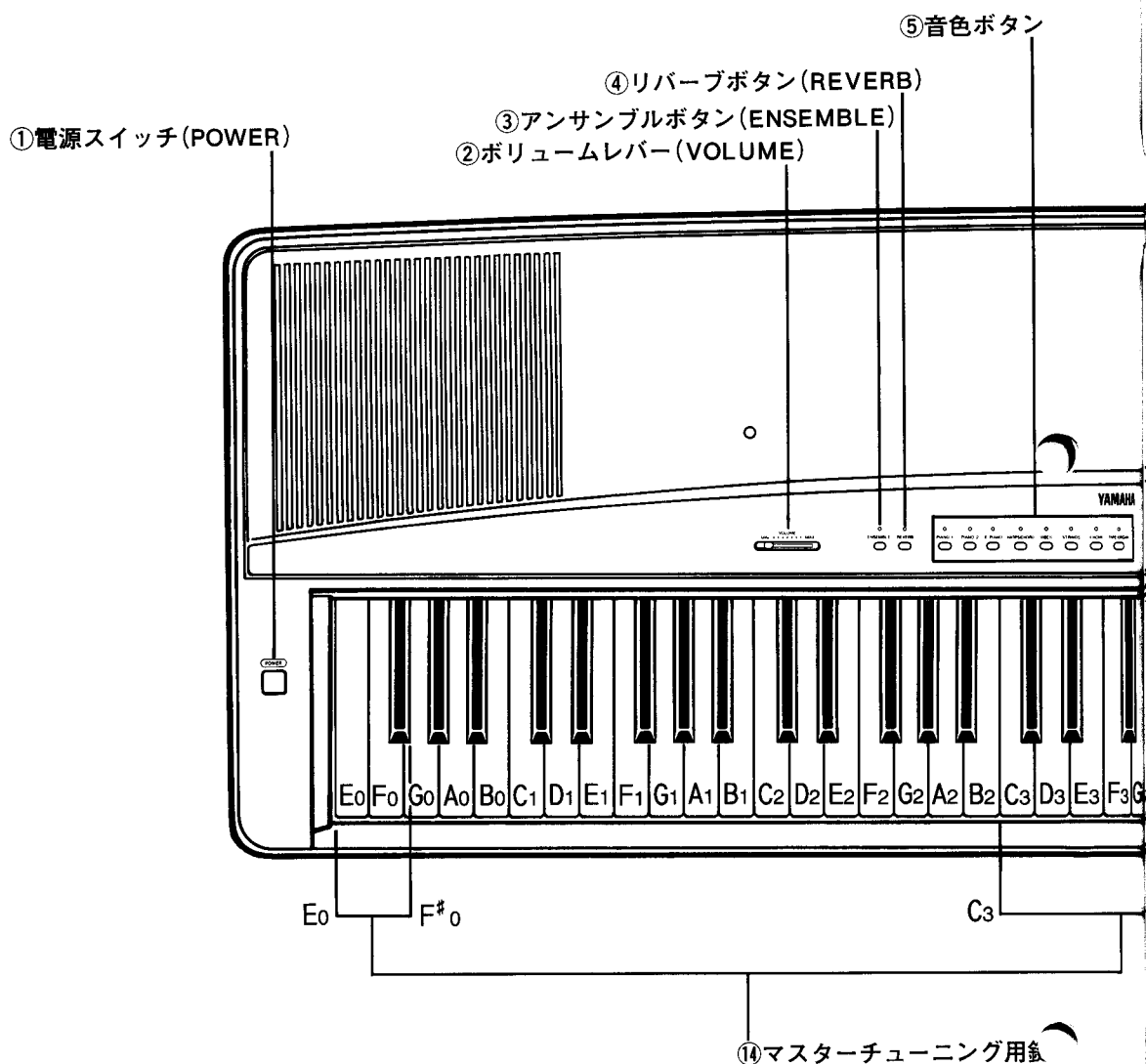
②短いネジ(B)で固定します。

※5本のネジ穴を合わせるためネジ5本を軽く締めた後、しっかり締め付けてください。

2 各部の名称と働き

→ページに詳しく説明してあります。

1. 操作パネル



①電源スイッチ(POWER) →6ページ

このスイッチを押すと電源が入り、もう一度押すと切れます。

②ボリュームレバー(VOLUME) →6ページ

全体の音量を調節するためのレバーです。

③アンサンブルボタン(ENSEMBLE) →9ページ

このボタンを押してランプを点灯させると、演奏音にアンサンブル効果が付き、音が広がって聞こえます。

④リバーブボタン(REVERB) →9ページ

このボタンを押してランプを点灯させると、演奏音にリバーブがかかり、音の響きが豊かになります。

⑤音色ボタン →6ページ

演奏に使う音色を選ぶことができます。

⑥ソングセレクトボタン(SONG) →14ページ

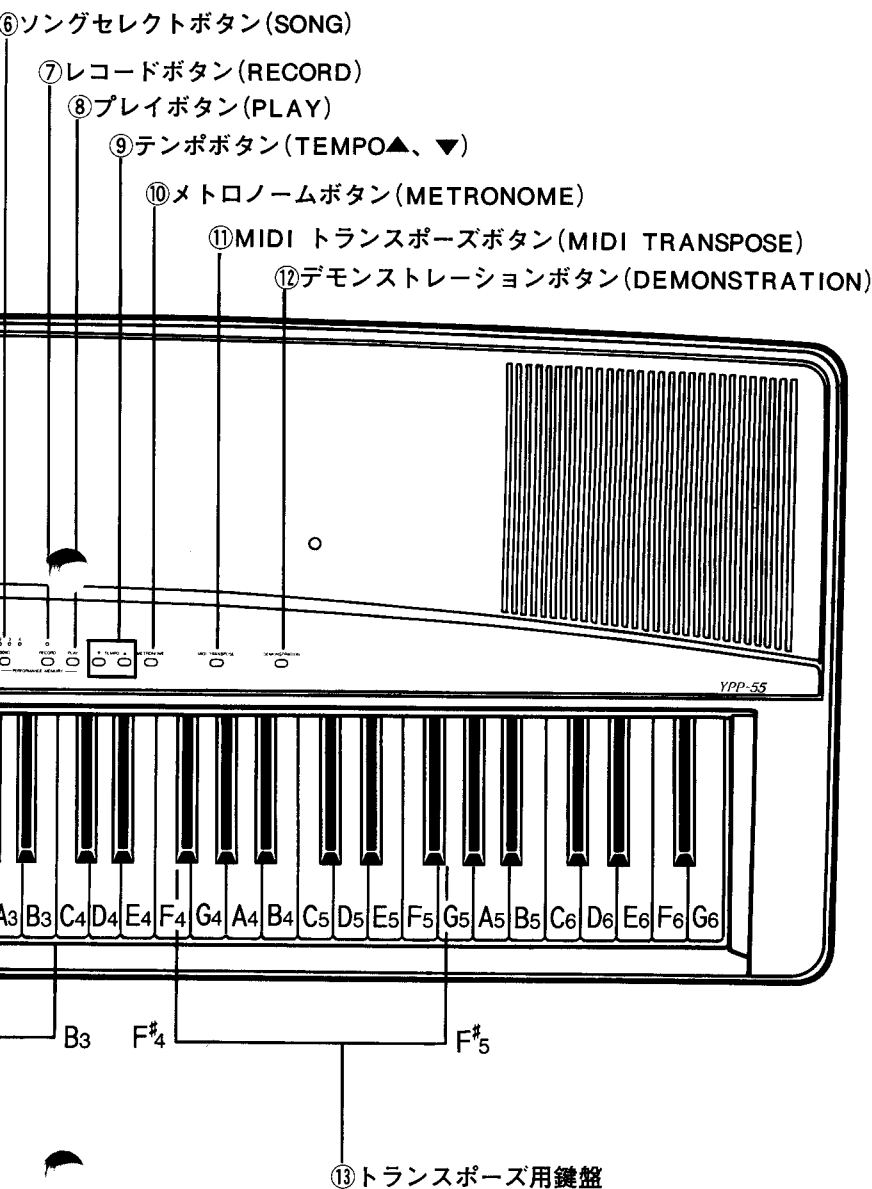
パフォーマンスメモリーで録音・再生する曲の番号を選びます。

⑦レコードボタン(RECORD) →14、15ページ

このボタンを押してランプを点灯させると、演奏の録音をはじめます。もう一度このボタンを押すか、⑧のプレイボタンを押すと録音が終了します。

⑧プレイボタン(PLAY) →16ページ

このボタンを押すと、⑥のソングセレクトボタンで選ばれているソングを再生します。ソングを再生中にもう一度このボタンを押すと、再生がストップします。



⑨テンポボタン (TEMPO ▲、▼) →11ページ

メトロノームの速さを調節するためのボタンです。また、このボタンでソングを再生する速さを変えることもできます。

⑩メトロノームボタン (METRONOME) →11ページ

このボタンを押すと、メトロノームが鳴り出します。メトロノームが鳴っている時に、もう一度このボタンを押すと、メトロノームは止まります。

⑪MIDI/トランスポーズボタン (MIDI/TRANPOSE)

→13、20ページ

MIDI(ミディ)機能の設定をする時や、トランスポーズ(移調)の設定をする時に使用します。

⑫デモンストレーションボタン (DEMONSTRATION)

→7ページ

YPP-55にはデモンストレーション曲が音色ごとに1曲ずつ、計8曲入っています。そのデモ演奏を聴く時に使用します。このボタンを押しながらボイスボタンを押すと、その音色のデモ演奏が聞けます。

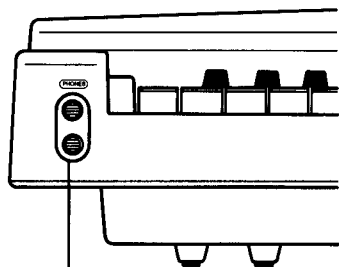
⑬トランスポーズ用鍵盤 →13ページ

MIDI/トランスポーズボタンを押しながらこの音域の鍵盤を押すことで、トランスポーズ(移調)の設定をします。

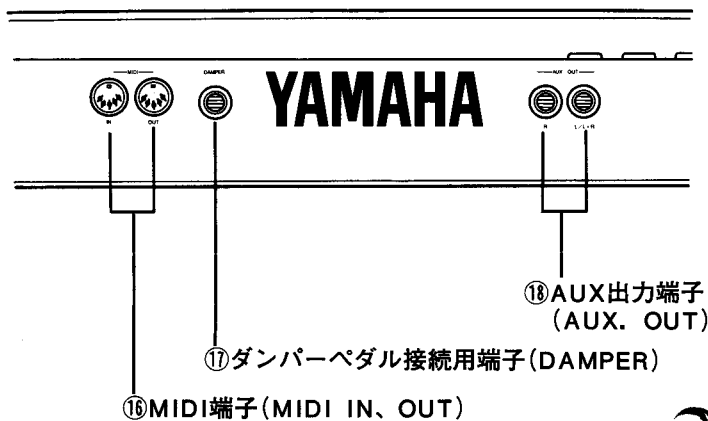
⑭マスターチューニング用鍵盤 →17ページ

この音域の鍵盤を使うことで、他の楽器とアンサンブルを楽しむ時など、微妙な音程の調節をすることができます。

2. 付属端子



⑮ヘッドホン端子(PHONES)



⑯MIDI端子(MIDI IN、OUT)

⑰ダンパーペダル接続用端子(DAMPER)

⑱AUX出力端子(AUX. OUT)

⑮ヘッドホン端子(PHONES) →18ページ

ヘッドホンを接続する端子です。2本まで接続することができます。ヘッドホンを使うとYPP-55のスピーカーからは音が出なくなりますから、夜間でも回りに迷惑をかけることはありません。

⑯MIDI端子(MIDI IN、OUT) →19ページ

他のMIDI(ミディ)機器と接続するための端子です。他のMIDI機器と接続すると、MIDI機能を使えるようになります。

⑰ダンパーペダル接続用端子(DAMPER) →10ページ

付属のダンパーペダルFC5を接続するための端子です。

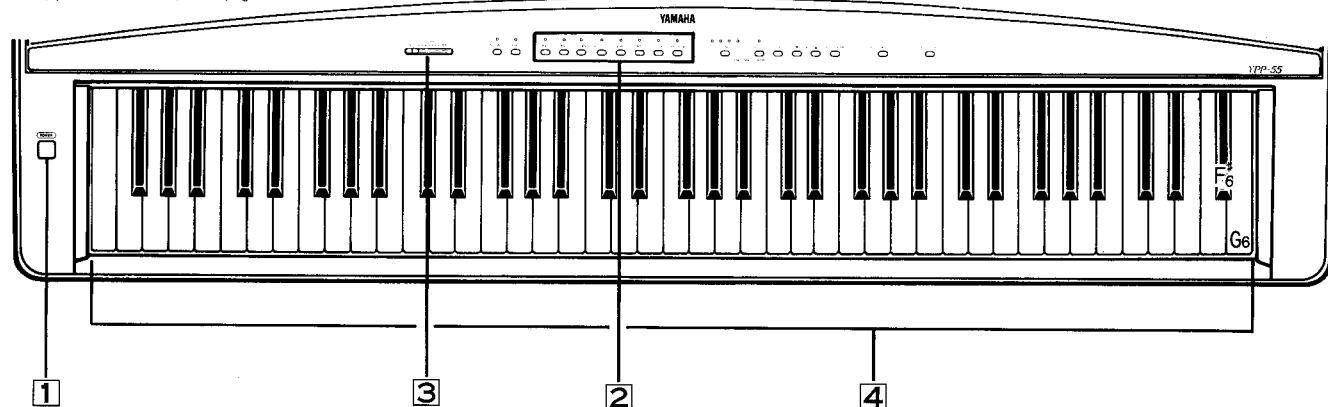
⑱AUX出力端子(AUX. OUT) →18ページ

YPP-55の音を外部に出力する端子です。キーボードアンプやステレオと接続して、より大きな音で鳴らすことができます。

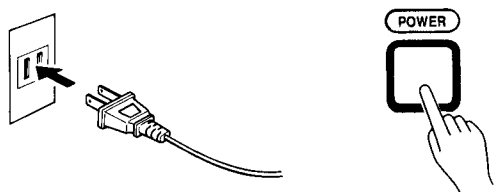
3. 鳴らしてみよう

1. 好きな音色で弾く

YPP-55には8種類の音があります。いろいろな音色に切り替えて弾いてみましょう。



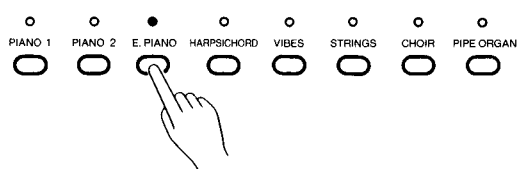
① 電源を入れる



家庭用(AC100V)コンセントに電源プラグを差込み、電源スイッチを押して電源を入れます。

※電源を入れると、ピアノのランプが点灯します。

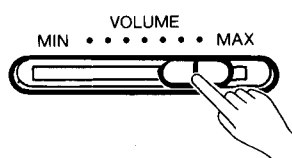
② 音色の指定



音色を選んで音色ボタンを押します。

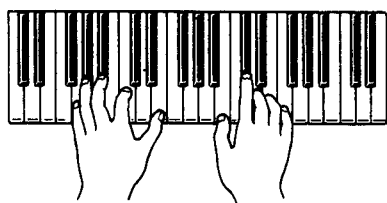
※電源を入れた直後は、PIANO 1の音色になっています。

③ 音量調節



ボリュームレバーで音量調節します。

④ 演奏



好きな曲を弾いてみましょう。

※音の大きさは、鍵盤を弾くタッチの強弱に応じて変化します。

(抑揚の表現が可能です。)

なお、音色によってこの感度は異なりますが、3段階の中で感度を切り替えることができます。

【感度の切り替え方法】

最高音部の2音(F[#]6とG6)の鍵盤を同時に押しながら、次のいずれかのボタンを押します。(電源を入れた直後は、感度2になっています。)

PIANO 1 ……感度1(タッチの強弱による音量変化が、小さく感じられる設定です。)

PIANO 2 ……感度2(タッチの強弱による音量変化が、標準的に感じられる設定です。)

E.PIANO ……感度3(タッチの強弱による音量変化が、大きく感じられる設定です。)

※いろいろな音色に切り替えて弾いてみましょう。

※最大同時発音数は、音色によって異なります。

PIANO 2、HARPSICHORD…32音

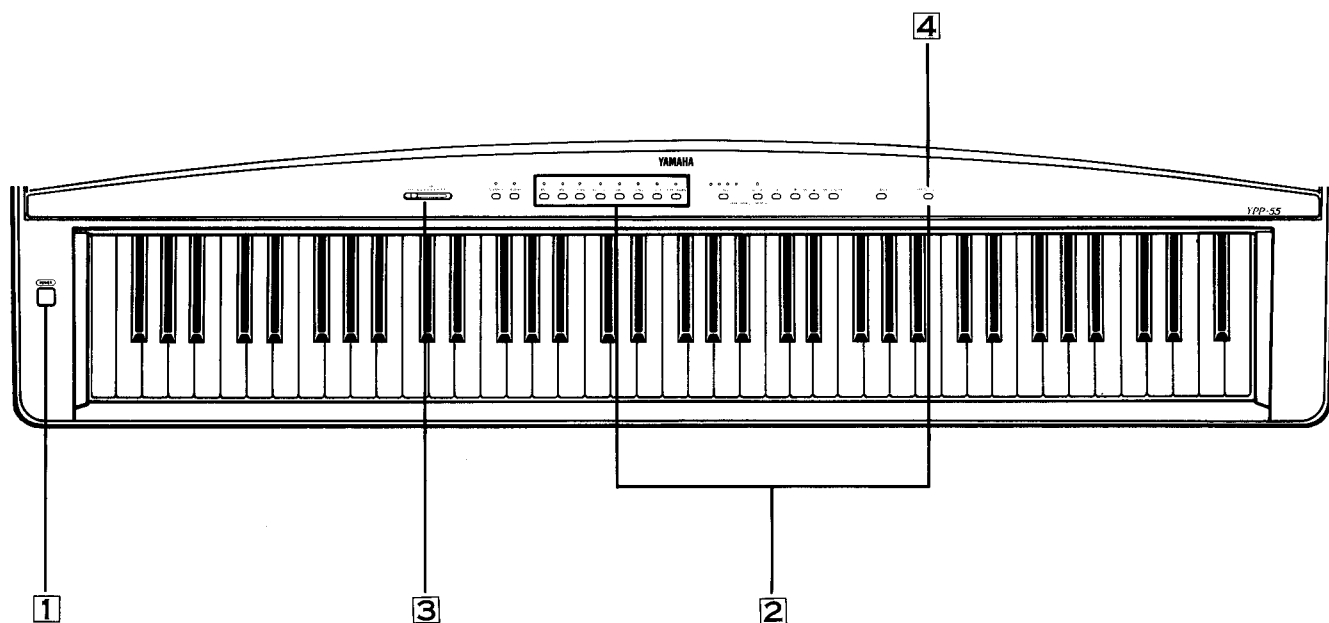
その他の音色……………16音

ただし、アンサンブルボタンの上のランプが点灯している時は、全音色とも同時発音数は最大16音になります。

※音色によっては、鍵盤上のいくつかのポイントで音色に微妙な差が生じることがあります。これはマルチサンプリングによるためであり、本体の異常ではありません。

2 デモ演奏を聴く

YPP-55には、デモンストレーションと呼ばれる8種類の曲が入っており、いつでも自由に聴くことができます。



1 電源を入れる



電源スイッチを押して電源を入れます。

② 曲をスタートさせる

デモ演奏を連続演奏させる時

DEMONSTRATION

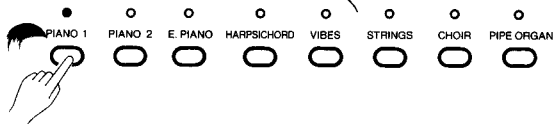


ある音色のデモ演奏だけを聴く時

DEMONSTRATION



押しながら

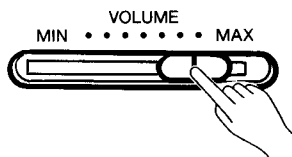


どちらかの方法でスタートさせます。

8曲のデモ演奏を順番に連続演奏させたい時は、デモンストレーションボタンだけを押してください。

ある音色のデモ演奏だけを聴く時は、デモンストレーションボタンを押しながら、聴きたい音色の音色ボタンを押します。

③ 音量の調節



ボリュームレバーで、適当な音量になるように調節します。

④ ストップ

DEMONSTRATION



停止させる時は、デモンストレーションボタンを押します。

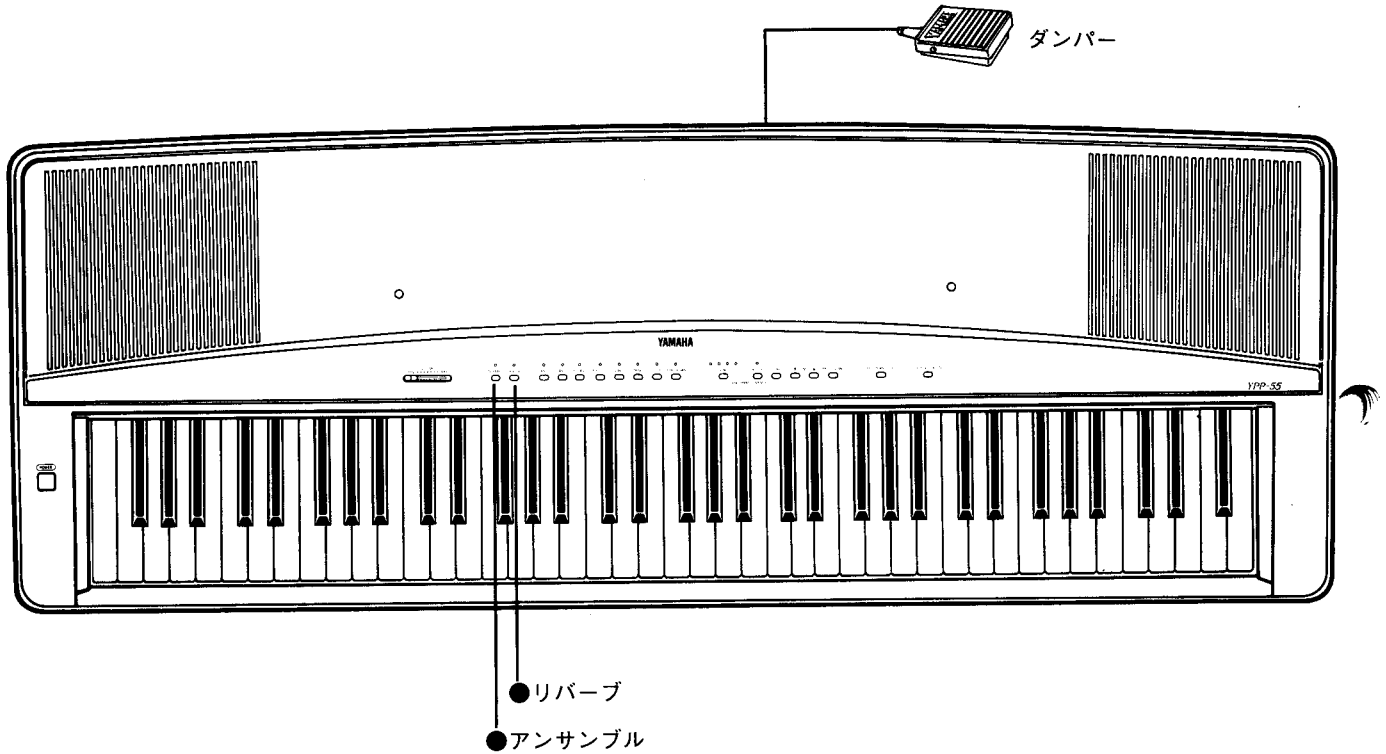
- ※デモ曲を聴きながら、演奏することもできます。
- ※デモ曲の再生中でも、アンサンブルとリバーブは入/切することができます。
- ※デモ曲の音色やテンポを変更することはできません。
- ※デモ曲のトランスポーズ設定(→13ページ)は、演奏停止時に行ってください。

※デモ曲の内容は、次の通りです。

音 色	曲 名	作 曲 者
PIANO 1	ピアノソナタ K.331 イ長調 第1楽章	モーツァルト
PIANO 2	楽興の時 へ短調 OP.94の3	シューベルト
E. PIANO	----	ヤマハ オリジナル
HARPSICHORD	インベンション8番	バッハ
VIBES	----	ヤマハ オリジナル
STRINGS	弦楽セレナーデ ハ長調 作品48	チャイコフ スキー
CHOIR	----	ヤマハ オリジナル
PIPE ORGAN	トッカータとフーガ ニ短調	バッハ

3. 演奏に効果を加える(アンサンブル、リバーブ、ダンパー)

YPP-55には、アンサンブル、リバーブ、ダンパーという3つの効果があります。これらは、演奏を引き立てる役目をするものです。



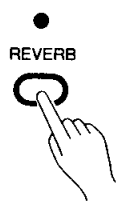
●アンサンブル



アンサンブルは、音に広がりをもたせる効果です。

アンサンブルボタンを押すとランプが点灯して効果がONになり、音が広がるようになります。もう一度押すと、効果がOFFになります。

●リバーブ



リバーブは、音の響きを豊かにさせる効果です。

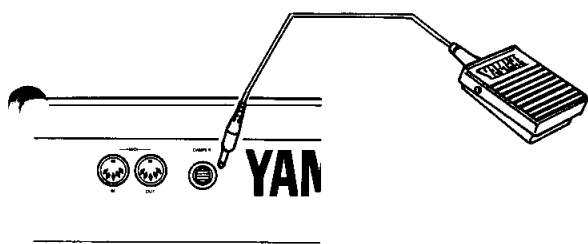
リバーブボタンを押すとランプが点灯して効果がONになり、残響が付くようになります。

もう一度押すと、効果がOFFになります。

※残響の深さは音色により異なります。

※電源を入れた時、リバーブはONになっています。

●ダンパー



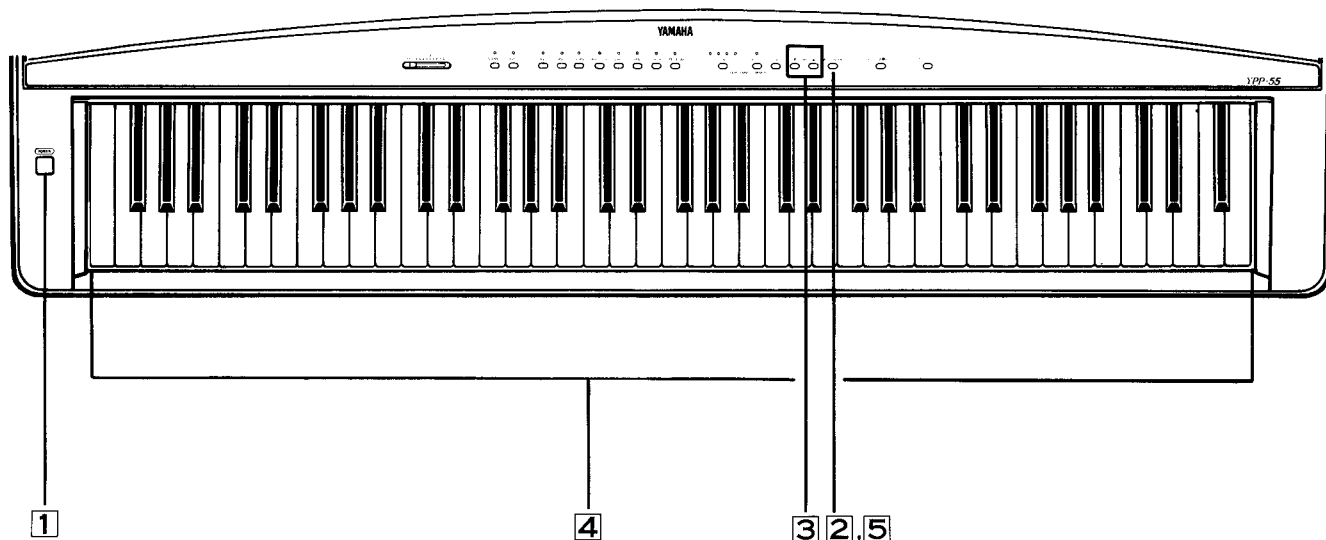
ダンパーは、ピアノのダンパーペダルを踏んだ時のように、音に余韻をつける効果です。ダンパー効果をかけると鍵盤を離しても音がすぐに切れず、効果的に使うと和音を豊かに響かせることができます。ピアノを演奏する上でとても大切な効果です。

ダンパーペダルFC5を踏むとダンパー効果がかかり、鍵盤を離した後も余韻が残ります。

ダンパーペダルFC5を離すと、それまで持続していた余韻が消えます。

4. メトロノームに合わせて弾く

YPP-55には、演奏の補助機能としてメトロノームがあります。ピアノの練習をする時などに活用してください。



① 電源を入れる



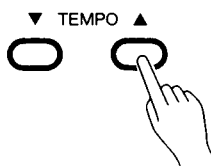
電源スイッチを押して電源を入れます。

② メトロノームをスタートさせる



メトロノームボタンを押してメトロノームをスタートさせます。

③ テンポの調節



テンポ(▲、▼)ボタンを押してテンポを調節します。

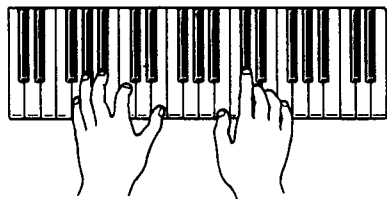
▲ボタンを押すと一段階速いテンポになり、▼ボタンを押すと一段階遅いテンポになります。押し続けると連続して変わります。

※テンポの可変幅は、♩=40~280です。

※▲ボタンと▼ボタンを同時に押すと、テンポは♩=120になります。

※電源を入れた直後、テンポは♩=120になっています。

4 演奏



メトロノームに合わせて弾いてみましょう。

5 メトロノームを止める

METRONOME



停止させる時は、メトロノームボタンを押します。

※テンポ表示はされませんが、テンポを1段階ずつ可変できることを利用して、テンポ(▲、▼)ボタンを押した回数でおよそのテンポを知ることはできます。

まず、テンポの▲ボタンと▼ボタンを同時に押してテンポを♩=120にしてから、テンポ(▲、▼)ボタンを回数を数えながら押し、下の表で今のテンポを調べてください。

もし何回押したのか判らなくなった場合は、もう一度♩=120にしてから、やり直してください。

▼ボタン		1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	8回	9回	10回
テンポ	120	116	112	108	104	100	96	92	88	82	76
▼ボタン	11回	12回	13回	14回	15回						
テンポ	70	64	56	48	40						

▲ボタン		1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	8回	9回	10回
テンポ	120	126	132	138	144	152	160	168	176	184	192
▲ボタン	11回	12回	13回	14回	15回	16回	17回	18回	19回		
テンポ	200	208	216	226	236	246	256	268	280		

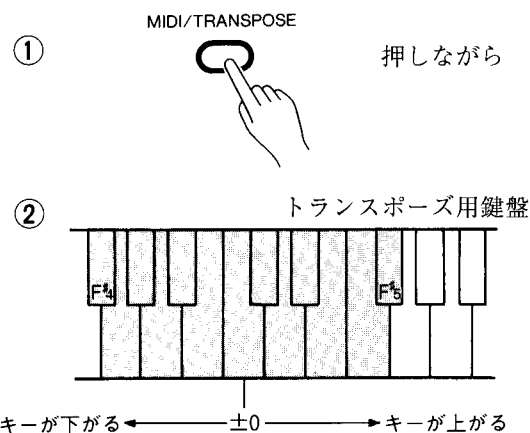
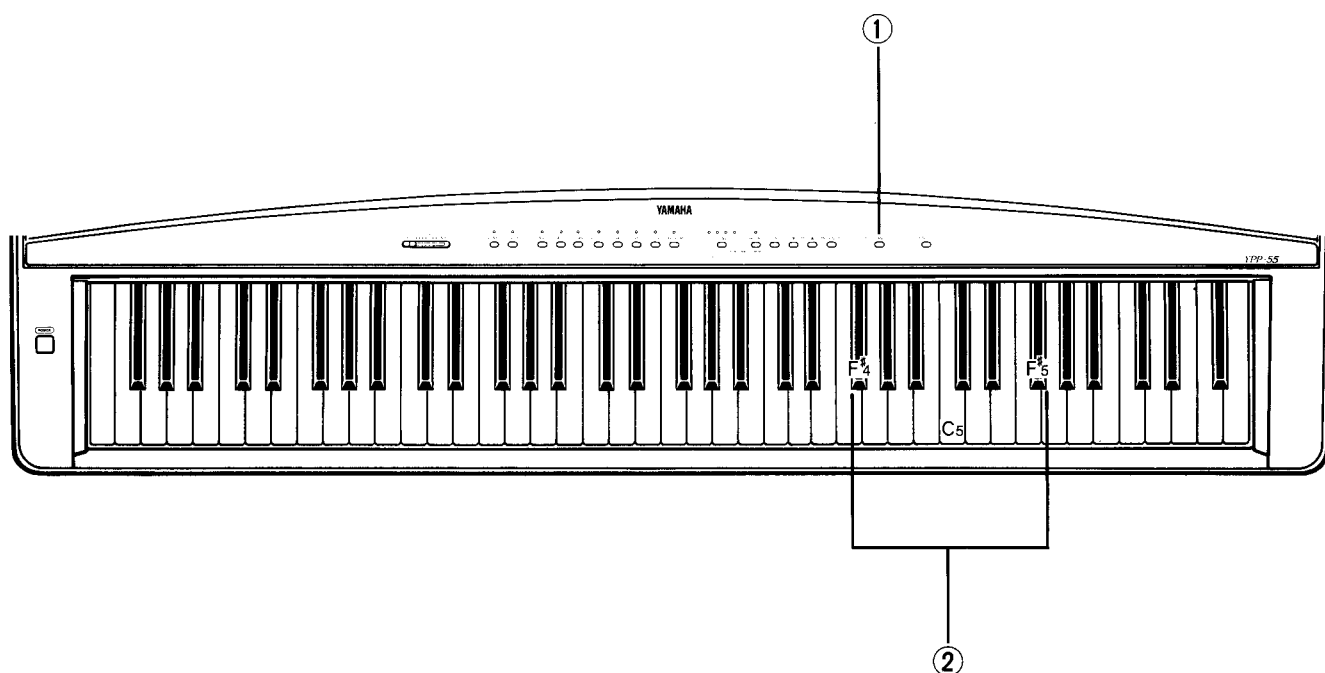
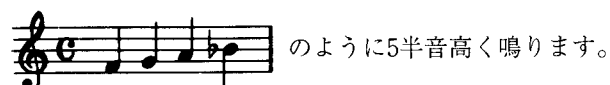
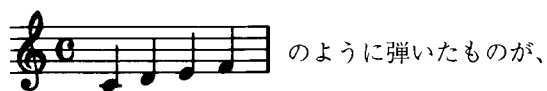
テンポ(▲、▼)ボタンを押し続けるとテンポは連続して変化しますので、ご注意ください。

5. 音程を変える(トランスポーズ)

押さえる鍵盤(運指)を変えずに、歌う人の声の高さにキーを合わせる。つまり移調(トランスポーズ)することができます。

(弾く高さで発音される高さを、ずらすことができます。)

※±6半音(±1/2オクターブ)の範囲で設定できます。たとえば、MIDI/トランスポーズボタンを押しながらF5を押さえると、



移調量を設定します。

- ①MIDI/トランスポーズボタンを押しながら、
- ②トランスポーズ用鍵盤ファ#(F#4)～ファ#(F#5)のいずれかひとつを押せば、そのキーに移調されます。

元の高さに戻すには、MIDI/トランスポーズボタンを押しながら、ド(C5)のキーを押さえてください。

※電源を切ると、元の高さに戻ります。

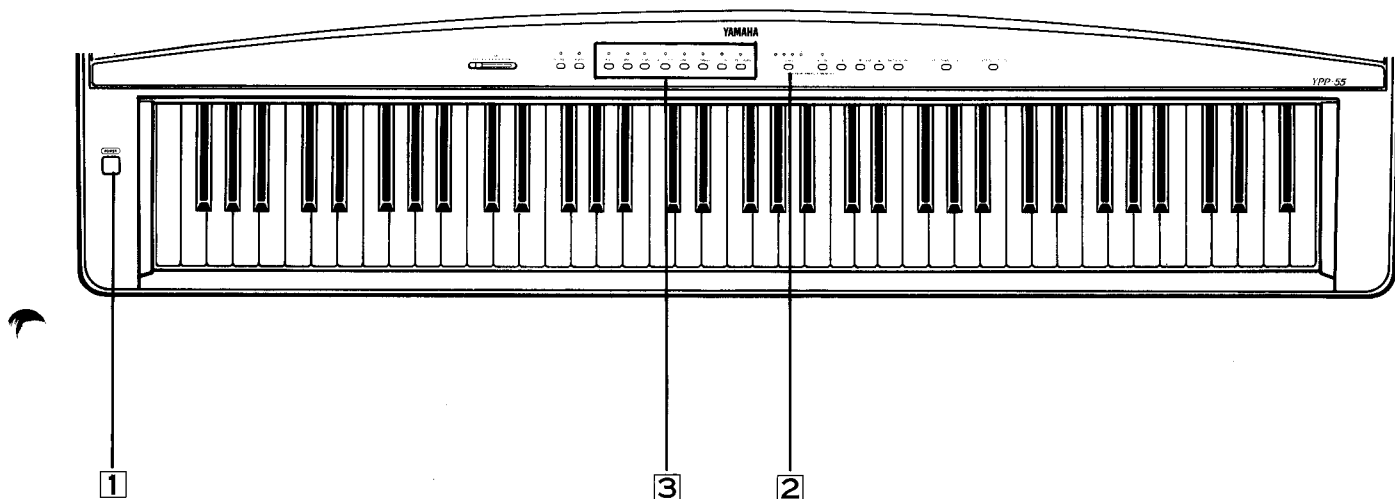
※デモ曲の再生中には設定できません。

4. 演奏を録音/再生する

(パフォーマンスメモリー)

1. 演奏を録音する

YPP-55には、演奏を録音/再生できる機能としてパフォーマンスメモリーがあります。ご自分の演奏を聴いたり、伴奏パートを先に録音し、後からメロディーパートを重ねたりすることができます。

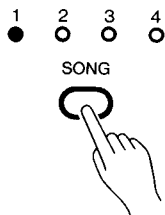


①電源を入れる



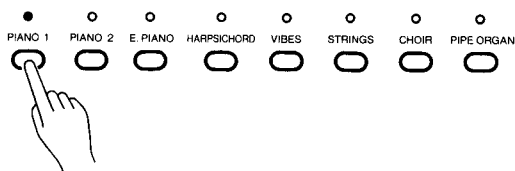
電源スイッチを押して電源を入れます。
※電源を入れると、ソングセレクト1のランプが点灯します。

②曲の番号を選ぶ

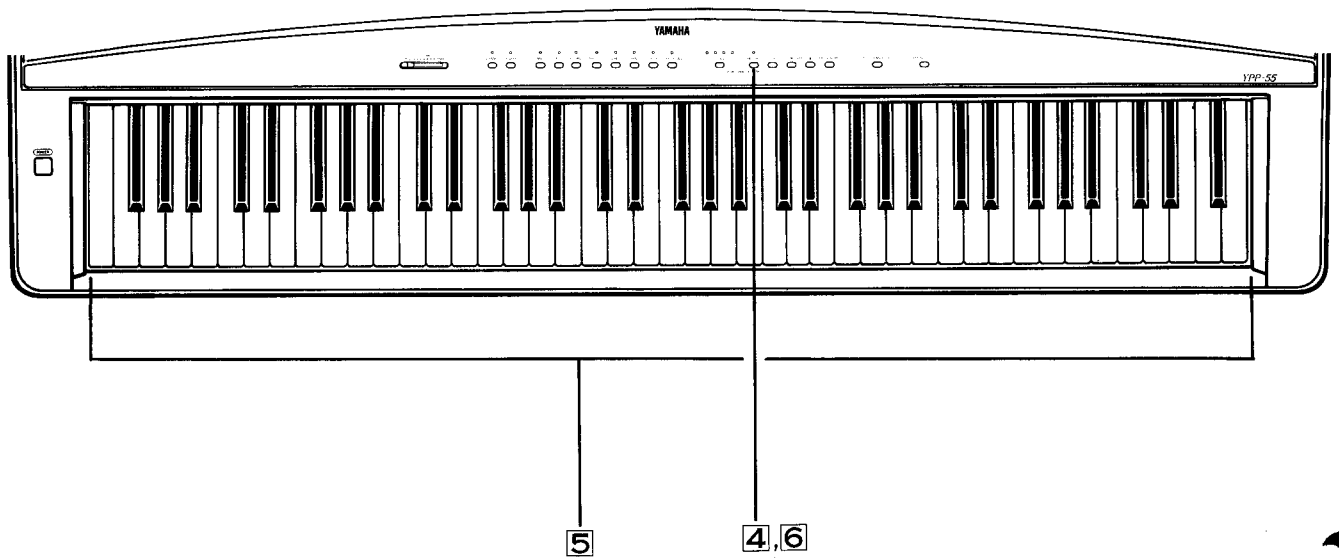


ソングセレクトボタンを押して、演奏を録音する曲の番号を1~4の中から選びます。
ソングセレクトボタンを押すごとに1~4のランプが順に点灯し、曲の番号が切り替わります。

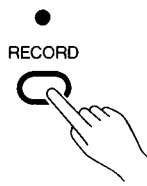
③音色を選ぶ



音色ボタンを押して、演奏で使う音色を選びます。
※録音中に音色を切り替えると、その操作も記憶され、再生時に同じタイミングで音色が切り替わります。

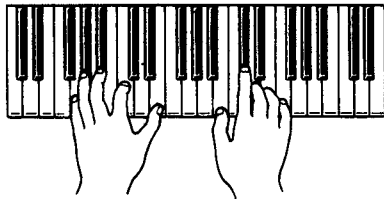


④ 録音状態にする



レコードボタンを押してランプを点灯させると、録音待機状態になります。

⑤ 演奏の開始



鍵盤を押すと、演奏を開始した時点から録音が始まります。録音が始まると、ランプは点滅に変わります。

⑥ 演奏の終了



演奏が終わったら、もう一度レコードボタンを押して録音を終了させます。

※タッチの強弱をはじめ、アンサンブル、リバーブ、ダンパーペダルの入/切や、テンポ変更も記録されます。

※メトロノームの入/切は、記録されません。

※録音できる音数は、ソング1~4の合計で最大約1,500音です。メモリーが一杯になると、自動的にレコードボタンの上のランプが消灯して録音を終了します。この場合、それまでの演奏は録音されています。

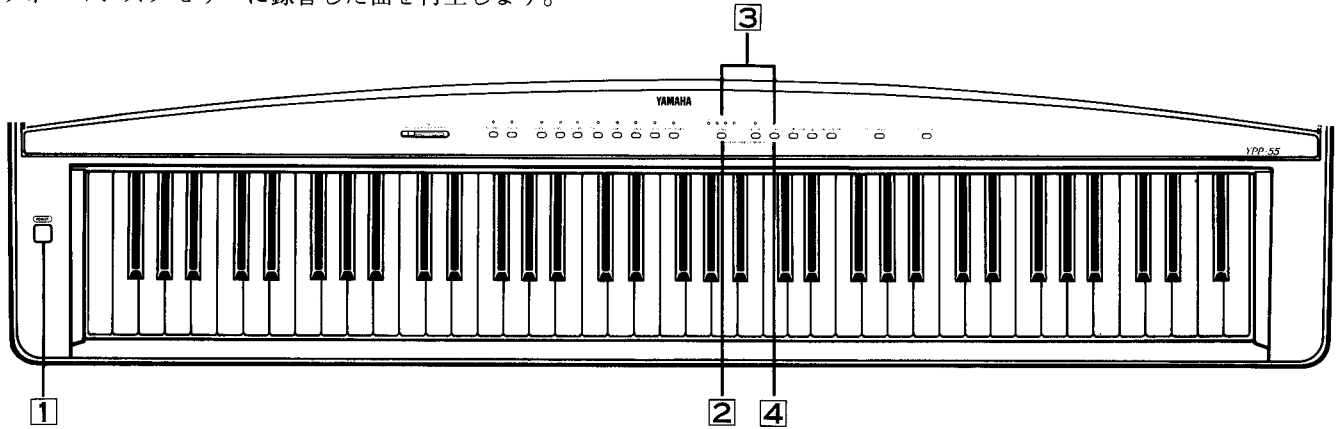
※長い曲を録音したい場合は、まず必要のない曲番を選んで1音だけ録音してください。(必要のない曲番が複数ある場合は、これを繰り返します。)

これによりメモリーの空きをより多く確保でき、より長い曲を録音できるようになります。

※録音された曲は、電源を切っても約1週間記憶され続けます。保存する場合は、最低1週間おきに電源を入れるようにしてください。

2 演奏を再生する

パフォーマンスメモリーに録音した曲を再生します。

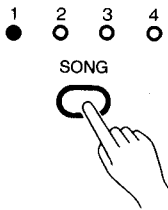


①電源を入れる



電源スイッチを押して電源を入れます。

②曲の番号を選ぶ



ソングセレクトボタンを押して、演奏を再生する曲の番号を1~4の中から選びます。
ソングセレクトボタンを押すごとに1~4のランプが順に点灯し、曲の番号が切り替わります。

③曲を再生する



プレイボタンを押すと、曲の再生が始まります。
再生が始まると、いま再生されているソングのランプが点滅します。

④再生を終了する



曲が終わると、自動的に再生は終了します。
曲の途中で再生を止めたい時は、もう一度プレイボタンを押してください。

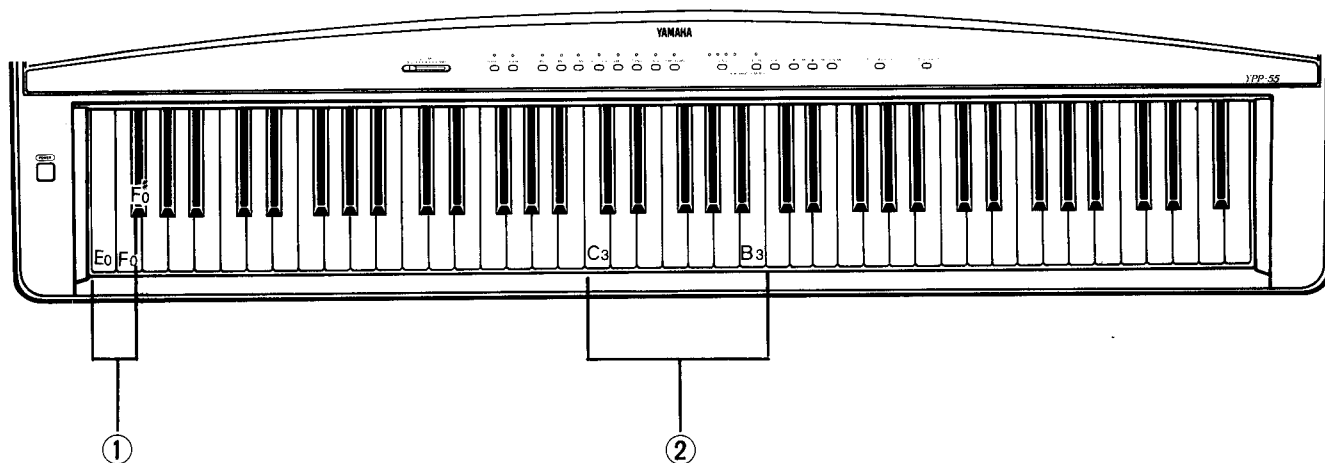
※再生している曲を伴奏にして、別の音色を選んで演奏することができます。この機能を使うと、一人でアンサンブルを楽しんだり、一人で連弾の練習をするなど、パフォーマンスメモリーをいろいろと活用することができます。

※再生している曲の音色を切り替えることはできません。
※再生中に、アンサンブル、リバーブ、再生のテンポなどを切り替えることができます。

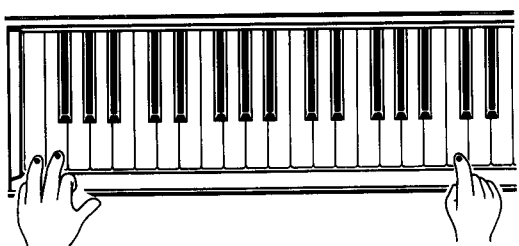
5. その他の機能

1. 他の楽器と音程を合わせる(マスターチューニング)

アンサンブルの時などに、他の楽器と正確に音程を合わせる
ことができます。つまり音程が微妙に異なる場合、この機能
を使って他の楽器と音の高さを合わせるすることができます。

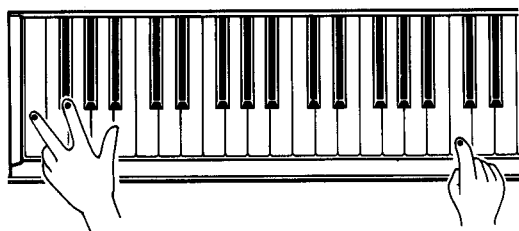


音程を上げる時



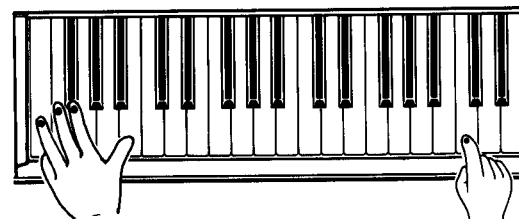
- ① ミ(E₀)とファ(F₀)の鍵盤を同時に押しながら、
- ② ド(C₃)～シ(B₃)のいずれかの鍵盤を押します。1回押すごとに少しずつ音程が上がっていきます。
音を聴きながらこきざみに音程を上げて、ピッチを合わせてください。

音程を下げる時



- ① ミ(E₀)とファ[#](F[#]₀)の鍵盤を同時に押しながら、
- ② ド(C₃)～シ(B₃)のいずれかの鍵盤を押します。1回押すごとに少しずつ音程が下がっていきます。
音を聴きながらこきざみに音程を下げて、ピッチを合わせてください。

音程を初期状態の高さに戻す時



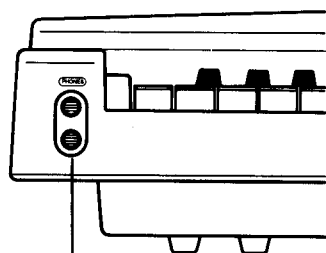
- ① ミ(E₀)とファ(F₀)とファ[#](F[#]₀)の鍵盤を同時に押しながら、
- ② ド(C₃)～シ(B₃)のいずれかの鍵盤を押します。

※電源を入れた直後は、初期状態(A₃=440Hz)になっています。

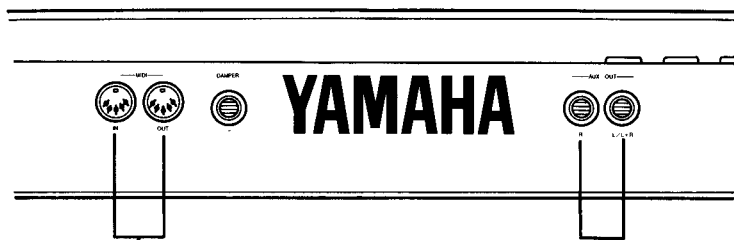
※初期状態から±約50セントの範囲で設定できます。(半音=100セント)。

2. 他の機器と接続する

付属端子を使って、各機器と接続できます。



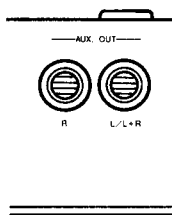
●ヘッドホン端子



●MIDI (IN, OUT) 端子

●AUX出力端子

●AUX出力端子

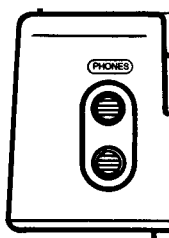


この端子を使ってキーボードアンプなどに接続し、より大きな音で鳴らしたり、カセットテープに演奏を録音することができます。

※接続した際は、他の機器のボリュームを最小にしてからYPP-55の電源を入れてください。

※片方の端子だけに接続(モノラル接続)する時は、L/L+R端子に接続してください。LとRの両方が出力されます。

●ヘッドホン端子

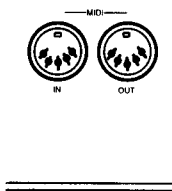


ステレオヘッドホンを2個まで接続し、外に音を出さずに演奏することができます。

※この端子にプラグを差し込むと、YPP-55のスピーカーからは音が出なくなります。

●MIDI (IN、OUT) 端子

(→19ページ)



この端子を使って他のMIDI機器と接続し、MIDIに関する情報をやりとりさせることができます。そして、さまざまなコントロールが可能です。

3. MIDI機能を使う

YPP-55はMIDI機能(MIDI端子)をもった楽器です。ここでは、MIDI端子の説明やMIDI機能を使ってできること、MIDIに関する設定方法を順に紹介します。

MIDIとは?

MIDI(ミディ)という言葉は、「Musical Instrument Digital Interface」の頭文字をとったものです。日本語に訳せば「楽器間のデジタル通信のための世界共通規格」ということになります。

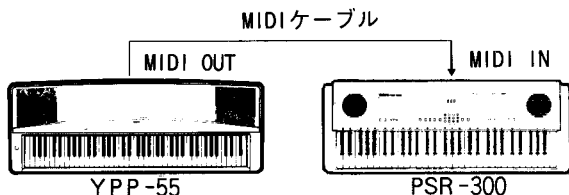
MIDIとは2台以上の楽器をつないで、それらの間で、演奏にまつわるさまざまなコントロールをさせようという目的で考え出された世界共通の規格です。

世界共通の規格ですから、メーカーの違う楽器間でもMIDI規格の楽器であれば、互いにコントロールすることが可能です。

MIDIの能力

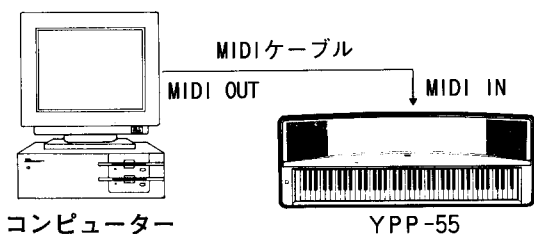
では、MIDIを使うと、具体的にどんなことができるのでしょうか?

- 1台のキーボードを演奏することによって、他のキーボードをリモート演奏することができます。また、音色の切り替えや、ダンパーペダルのON/OFFなど、様々な効果もあわせてリモートコントロールできます。



※機種によりMIDIでコントロールできる内容は異なります。接続する機種に共通のMIDI機能についてのみ、リモートコントロールできます。

- コンピューターやシーケンサーにMIDIの演奏情報を記録しておけば、MIDI楽器に自動演奏をさせることができます。(MIDIの演奏情報を録音する機器を、一般にシーケンサーと呼んでいます。)



MIDIの約束ごと

●MIDI端子

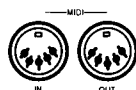
MIDI情報のやり取りには、専用のMIDIケーブルを使います。MIDI楽器には、このMIDIケーブルをつなぐために、専用のMIDI端子が付いています。

このMIDI端子には以下の3つの種類があります。

MIDI IN端子(イン)……MIDI情報を受け取るための端子です。ここからMIDI情報が入ってきます。

MIDI OUT端子(アウト)……MIDI情報を出すための端子です。本体から出ていくMIDI情報は、ここから出ていきます。

MIDI THRU端子(スルー)……MIDI INから入ってきたMIDI情報を、そのまま出すことのできる端子です。この端子を利用すれば、MIDI情報を次の楽器に伝達することができます。



※YPP-55には、MIDI THRU端子はありません。

MIDIケーブルは、MIDI OUT端子またはMIDI THRU端子から、MIDI IN端子へ結線するのが原則です。

MIDI OUTとMIDI OUT、MIDI INとMIDI INをつないでも、意味がありません。

●MIDIチャンネル

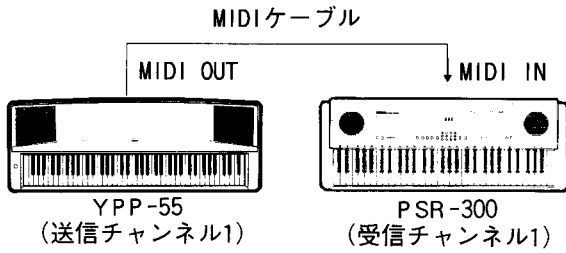
テレビの放送にチャンネルがあるように、MIDIの情報にもチャンネルがあります。

MIDIで情報のやり取りをするには、MIDIチャンネルを合わせる必要があります。と言うのは、MIDI情報のほとんどが、それぞれの情報にチャンネルが指定されて送られているからです。(チャンネルのついていないMIDI情報もあります。)

MIDIチャンネルには、1~16までの16種類があり、送る側でどのチャンネルで情報を送るか設定できるようになっています。この送る側のチャンネルを「送信チャンネル」と呼んでいます。

また、受け手側も何チャンネルの情報を受けるかを設定できるようになっています。この受ける側のチャンネルを「受信チャンネル」と呼んでいます。

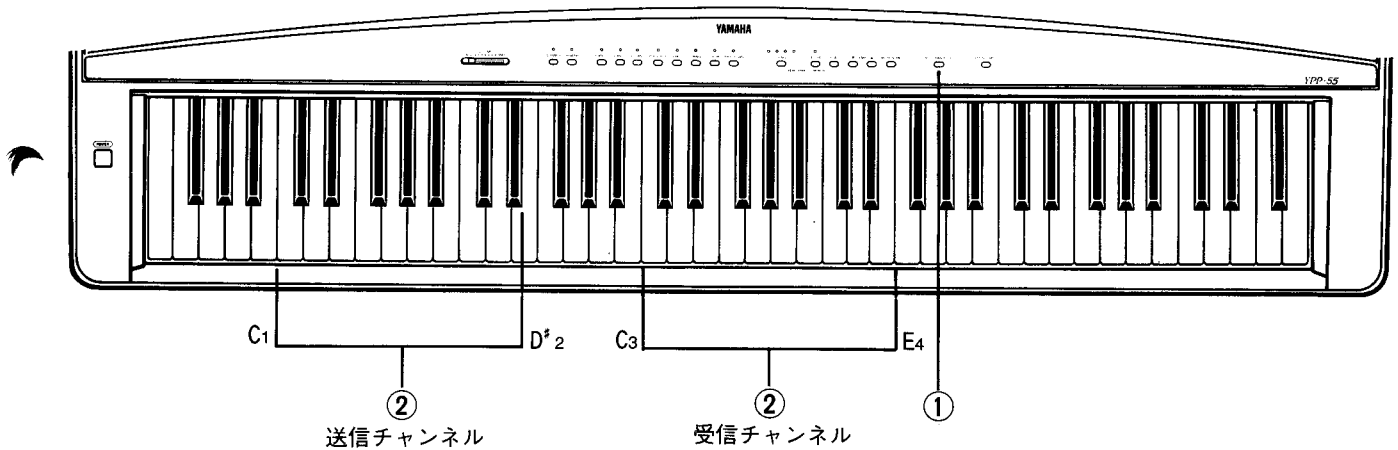
たとえば、次の図のようにYPP-55からPSR-300にMIDIで情報を送って鳴らそうと思ったら、YPP-55の送信チャンネルとPSR-300の受信チャンネルを合わせる必要があります。MIDIケーブルが正しく接続されていても、このチャンネルが合っていないと、送り手側からのMIDI情報に受け手側は反応しない仕組みになっているのです。



YPP-55のMIDIの設定

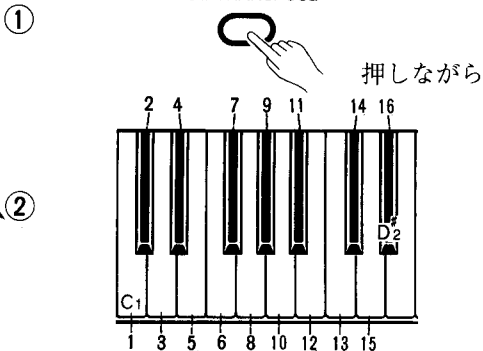
●MIDIチャンネルを設定する

MIDIの送信チャンネル、受信チャンネルを設定します。



送信チャンネルを設定する時

MIDI/TRANSPOSE



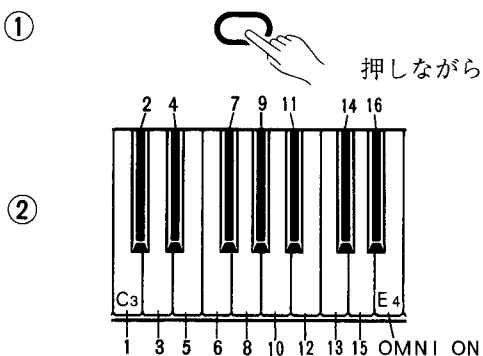
①MIDI/トランスポーズボタンを押しながら、

②C₁～D[#]₂の鍵盤を押すと、左の図のように送信チャンネルが設定されます。

※電源を入れた直後は、送信チャンネルは1に設定されています。

受信チャンネルを設定する時

MIDI/TRANSPOSE



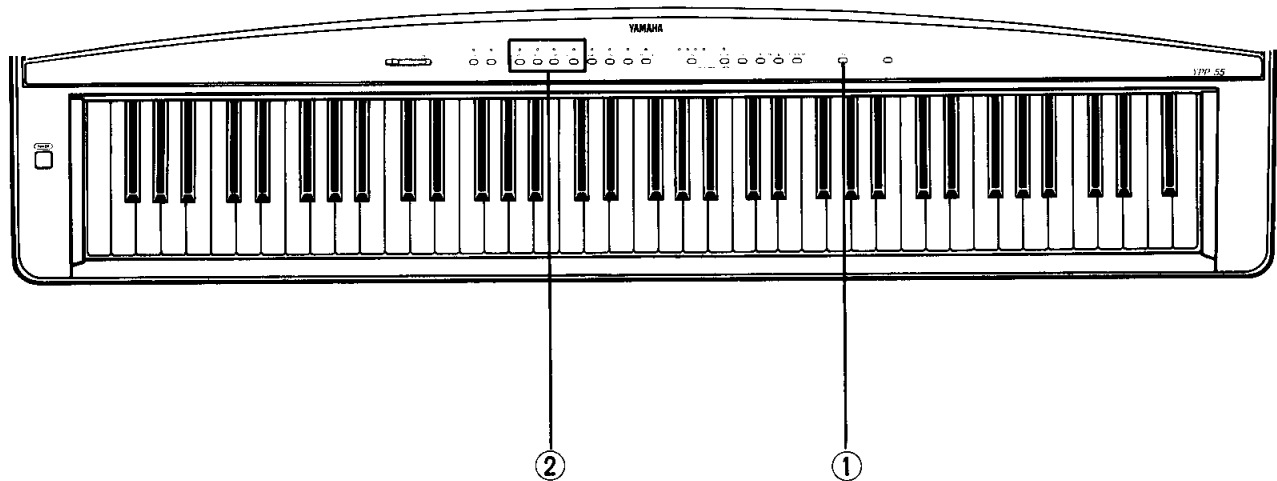
①MIDI/トランスポーズボタンを押しながら、

②C₃～E₄の鍵盤を押すと、左の図のように受信チャンネルが設定されます。

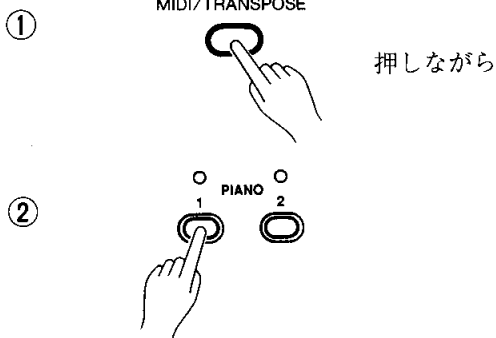
※電源を入れた直後は、受信チャンネルは1に設定されています。
 ※受信チャンネルには、1～16チャンネル以外にもう1つの状態があります。その状態とは「OMNI(オムニ)モード」と呼ばれるものです。このOMNIモードがONの設定になっていると、全てのチャンネルの情報を受けてしまいます。このOMNIモードは便利なモードですが、全ての送信チャンネルのデータにいっぺんに反応してしまいますから注意が必要です。
 (受信チャンネルが1～16に設定されている時は、OMNIはOFFに設定されています。)

その他のMIDI設定

ローカルコントロール、プログラムチェンジ・キャンセル、コントロールチェンジ・キャンセル、マルチティンバーのON/OFFを設定します。



ローカルコントロール



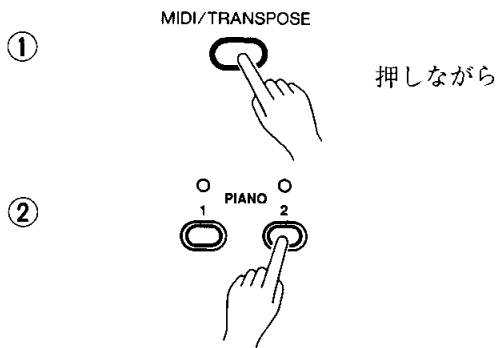
YPP-55の内部で、鍵盤部分と音源部分を電氣的に切り離すか、切り離さないかの設定です。

ローカルコントロールをOFFにすると、鍵盤と音源が切り離されるため、鍵盤を弾いても音が鳴らなくなります。YPP-55本体の音を鳴らさずに、MIDIで他のキーボードをコントロールしたい時に、OFFにしてください。

※MIDI/トランスポーズボタンを押しながらPIANO 1ボタンを押すたびに、ON/OFFが繰り返されます。

※電源を入れた直後は、ONに設定されています。

プログラムチェンジ・キャンセル



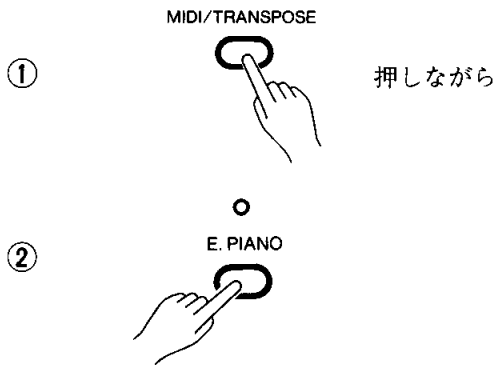
MIDIの音色切り替えの信号を送受信させるか、させないかの設定です。

プログラムチェンジ・キャンセルをONにすると、MIDIで音色切り替えの信号を受け取っても、音色は切り替わらなくなります。また、他のキーボードの音色切り替えもコントロールできなくなります。

※MIDI/トランスポーズボタンを押しながらPIANO 2ボタンを押すたびに、ON/OFFが繰り返されます。

※電源を入れた直後は、OFFに設定されています。

コントロールチェンジ・キャンセル



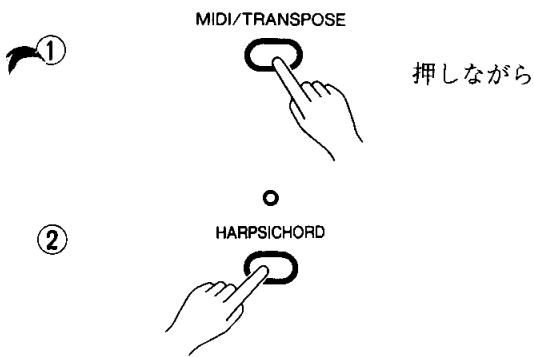
主にMIDIのダンパーペダルの信号を送受信させるか、させないかの設定です。

コントロールチェンジ・キャンセルをONにすると、ダンパーペダルのON/OFFをMIDIでコントロールできなくなります。

※MIDI/トランスポーズボタンを押しながらE. PIANOボタンを押すたびに、ON/OFFが繰り返されます。

※電源を入れた直後は、OFFに設定されています。

マルチティンバー



チャンネル1~10の情報を同時に受信させるか、させないかの設定です。

マルチティンバーをONにすると、別々のチャンネルでシーケンサーに記録されている様々なパートの演奏情報を、YPP-55本体1台に同時に受信させて様々な音色で鳴らすことができます。

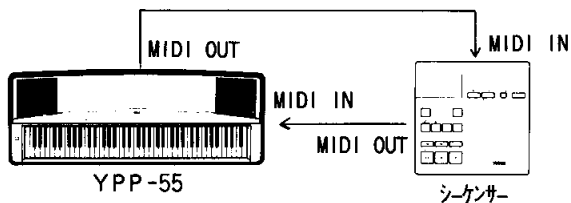
※MIDI/トランスポーズボタンを押しながらHARPSICHORDボタンを押すたびに、ON/OFFが繰り返されます。

※電源を入れた直後は、OFFに設定されています。

マルチティンバー機能を使った一例

マルチティンバー機能を使った例の一つとして、複数のパートによるアンサンブル演奏をシーケンサーに録音し、録音した各パートの演奏をYPP-55が持つ異なった音色で再生させる場合を紹介します。

①YPP-55とシーケンサーを、図のように接続します。



②シーケンサーにエコーバック機能がある場合は、エコーOFFにします。

③録音するパートの音色を選びます。さらにYPP-55上のMIDI送信チャンネルを、次表に従い音色ごとのチャンネルに合わせてください。

PIANO 1	チャンネル 1
PIANO 2	チャンネル 2
E. PIANO	チャンネル 3
HARPSICHORD	チャンネル 4
VIBES	チャンネル 5
STRINGS	チャンネル 6
CHOIR	チャンネル 7
PIPE ORGAN	チャンネル 8
PIANO 1	チャンネル 9
PIANO 2	チャンネル 10

④シーケンサーのいずれかのトラックに、最初のパートを録音します。

⑤シーケンサーの別のトラックに、別のパートを録音します。別のパートの録音を始める前に、③と同様に、必ずYPP-55上でMIDI送信チャンネルを指定してください。

⑥シーケンサーを再生させます。完了したいくつかのパートによるアンサンブル演奏が、YPP-55のスピーカーから複数の音色で聞こえます。

YPP-55

MIDIインプリメンテーションチャート

Date: 1992. 3. 1
Version: 1. 0

ファンクション...	送	信	受	信	備	考
ベーシック チャンネル	電源ON時 設定可能	1チャンネル 1~16チャンネル	1チャンネル 1~16チャンネル			
モード	電源ON時 メッセージ 代用	モード3 × *****	モード3 オムニオン/オフ ×			
ノート ナンバー	音域	28~103 *****	21~108 21~108			
ベロシティ	ノート・オン ノート・オフ	○ 9nH、v=1~127 × 9nH、v=0	○ v=1~127 × 9nH、v=0 or 8nH			
アフター タッチ	キー別 チャンネル別	× ×	× ×			
ピッチ・ベンダー		×	×			
コントロール チェンジ	07 11 64	× × ○	○ ○ ○		ボリューム エクスプレッション ダンパー	
プログラム チェンジ	設定可能範囲	○ 0~7 *****	○ 0~7 0~7			
エクスクルーシブ		○	○			
コモン	ソング・ポジション ソング・セレクト チューン	× × ×	× × ×			
リアル タイム	クロック コマンド	× ×	× ×			
その他	ローカルON/OFF オール・ノート・オフ アクティブ・センシング リセット	× × ○ ×	○ ○ (122~125) ○ ×			
備考						

モード1：オムニ・オン、ポリ
モード3：オムニ・オフ、ポリ

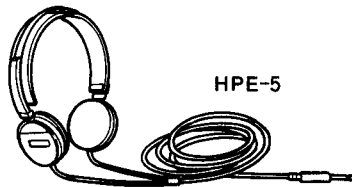
モード2：オムニ・オン、モノ
モード4：オムニ・オフ、モノ

○：あり
×：なし

6. 資料

1. オプション(別売品)のご紹介

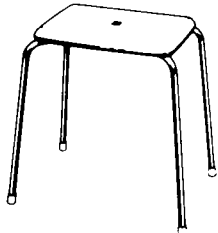
ステレオヘッドホン・HPE-5 ¥5,500
HPE-3 ¥3,000



MIDIケーブル・MIDI-03 ¥1,100



イス・BC-6 ¥5,000



※表示の価格には、消費税は含まれていません。

2.仕様

- 鍵盤
一段鍵盤76鍵(E₀~G₆)イニシャルタッチ付
- 音源
AWM音源
- 音色(8音色)
PIANO 1、PIANO 2、E.PIANO、HARPSICHORD、
VIBES、STRINGS、CHOIR、PIPE ORGAN
- 同時発音数
PIANO 2、HARPSICHORD・・・最大32音
その他の音色・・・・・・・最大16音
(ただし、アンサンブルボタンがONの時は最大16音)
- 効果
アンサンブル、リバープ、ダンパー
- パフォーマンスメモリー
ソング数・・・・・・・4ソング
録音容量・・・・・・・最大約1,500音
- メトロノーム
- デモンストレーション
8曲(音色ごとに1曲)
- 付属端子
ヘッドホン×2、AUX.OUT R、L/L+R、MIDI端子(IN、
OUT)、ダンパーペダル接続用端子
- メインアンプ
ステレオ、7W×2
- スピーカー
12cm(6Ω)×2
- 定格電源
AC100V、50/60Hz
- 消費電力
30W
- 外装仕上げ
アクリルラッカー塗装仕上げ
- 寸法(スタンド付、譜面立て取り外し時)
(間口)1203mm×(奥行)433mm×(高さ)774mm
- 重量(スタンド・譜面立て取り付け時)
22.5kg
- 付属品
譜面立て、ダンパーペダルFC5、ダストカバー、
取扱説明書、保証書

※仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

3. おかしいな?と思ったら

おかしいな?と思ったときは、この表を見てください。

現象	原因	解決法
電源スイッチをONまたは OFFにした時、“ポツン”と音がする。	電気が流れたため。	ご心配いりません。
スピーカーから音が出ない。	音量が下がっている。	ボリュームレバーを上げてください。
	ヘッドホン端子にプラグを差しているため。	プラグを抜いてください。
押さえた鍵盤の数だけ音が出ない。	同時に鳴らせる音数には制限があります。	7ページを参照してください。
記憶させておいたデータが消えている。	電源を切ったまま1週間以上経過した。	もう一度記憶させてください。
テンポが変わらない。	テンポの設定範囲を越えようとしている。	テンポの設定範囲は、♩=40~280の範囲です。
プレイボタンを押しても演奏が始まらない。	いま選ばれているソングに、曲が録音されていない。	まず、レコードキーを押して演奏を録音してください。
	ボリュームが下がっている。	ボリュームレバーで音量調節します。
	デモ演奏がスタートしている。	デモンストレーションボタンを押して、デモ演奏をストップさせてから改めてプレイボタンを押してください。
鍵盤を弾いても音が出ない。	ローカルコントロールがOFFになっている。	一度電源をOFFにして、再び電源をONにしてください。

4 保証とアフターサービス

- 本機の保証期間は、保証書により、ご購入から満1年です。(国内のみ有効) なお、現金・クレジットなど支払い方法による保証の区別はいたしません。
- 保証期間の1年を過ぎましても、有償にて責任をもってサービスを実施いたします。なお、補修用性能部品の保有期間は製造打ち切り後最低8年となっております。また、保証期間中の修理などアフターサービスについてご不明の点は、お買い上げ店、または、下記のサービス拠点までお問い合わせください。
- お買い上げ店による修理調整
故障の場合は、直接お買い上げ店にご持参ください。責任をもって修理調整いたします。
- サービスのご依頼
ご使用中に「故障ではないか」と思われましたら、まず「おかしいな?と思ったら」の項をお読みいただき、ご確認ください。(ご依頼をお受けして点検いたしますと、故障でない場合でも点検代を申し受けることもございます。) なお、サービスをご依頼されるときは、お名前、ご住所、電話番号などを正確にお知らせください。またお勤めなどでご不在がちの方は、お勤め先の電話番号、もしくは連絡先をお知らせください。(楽器の具合をもう少し詳しくおたずねしたいときや、万一やむをえない事情によってお約束を変更しなければならないようなときに、お客様にご迷惑をおかけしないですみます。)

◆ヤマハ電気音響製品サービス拠点(修理受付および修理品お持込み窓口)

北海道サービスセンター	〒064-0810	札幌市中央区南10条西1-1-50 ヤマハセンター内	TEL. 011-512-6108
仙台サービスセンター	〒984-0015	仙台市若林区卸町5-7 仙台卸商共同配送センター3F	TEL. 022-236-0249
首都圏サービスセンター	〒211-0025	川崎市中原区木月1184	TEL. 044-434-3100
東京サービスステーション*	〒108-8568	東京都港区高輪2-17-11	TEL. 03-5488-6625
(*お持ち込み修理のみのお取り扱い)			
浜松サービスセンター	〒435-0048	浜松市上西町911 ヤマハ(株)宮竹工場内	TEL. 053-465-6711
名古屋サービスセンター	〒454-0058	名古屋市中川区玉川町2-1-2 ヤマハ(株)名古屋流通センター3F	TEL. 052-652-2230
大阪サービスセンター	〒565-0803	吹田市新芦屋下1-16 ヤマハ(株)千里丘センター内	TEL. 06-877-5262
四国サービスステーション	〒760-0029	高松市丸亀町8-7 ヤマハミュージック神戸高松店内	TEL. 0878-22-3045
広島サービスセンター	〒731-0113	広島市安佐南区西原6-14-14	TEL. 082-874-3787
九州サービスセンター	〒812-8508	福岡市博多区博多駅前2-11-4	TEL. 092-472-2134
[本社]カスタマーサービス部	〒435-0048	浜松市上西町911 ヤマハ(株)宮竹工場内	TEL. 053-465-1158

◆パーソナルエレクトロニックピアノに関するお問い合わせ窓口

ポータブル楽器インフォメーションセンター 〒430-8650 静岡県浜松市中沢町10-1 TEL. 053-460-1696
● 受付日 月曜日～金曜日(祝日およびセンターの休業日を除く) ● 受付時間 10:00～12:00 / 13:00～17:00

電子楽器営業部	〒108-8568	東京都港区高輪2-17-11	
ポータブル楽器営業課		TEL. 03-5488-6641	
北海道支店 第二営業課	〒064-0810	札幌市中央区南10条西1-1-50 ヤマハセンター内	TEL. 011-512-6113
仙台支店 第二営業課	〒980-0804	仙台市青葉区大町2-2-10 住友生命仙台青葉通ビル	TEL. 022-222-6147
東京支店 第二営業部 企画課	〒108-8568	東京都港区高輪2-17-11	TEL. 03-5488-5476
関東支店 第二営業課	〒108-8568	東京都港区高輪2-17-11	TEL. 03-5488-1688
名古屋支店 第二営業課	〒460-8588	名古屋市中区錦1-18-28	TEL. 052-201-5199
大阪支店 第二営業部 第二営業課	〒542-0081	大阪市中央区南船場3-12-9 心齋橋プラザビル東館	TEL. 06-252-7491
広島支店 第二営業課	〒730-0031	広島市中区紙屋町1-1-18	TEL. 082-244-3749
九州支店 第二営業課	〒812-8500	福岡市博多区博多駅前2-11-4	TEL. 092-472-2130

※住所および電話番号は変更になる場合があります。

◆インターネットホームページのご案内

製品等に関する情報をホームページ上でご案内しております。ご参照ください。
・ヤマハ株式会社のホームページ <http://www.yamaha.co.jp/>

YAMAHA
YAMAHA CORPORATION

ヤマハ株式会社